目次

第１章 集団
- 社会集団
- 家族
- 組織

第２章 心理と行為
- 社会心理
- 行為
- 相互行為

第３章 地域社会
- 都市
- 階級
- 労働

第４章 社会構造と変動
- 社会構造
- 社会変動

第５章 逸脱と文化
- 逸脱
- 文化
- マス・メディア

第６章 現代の社会学

第７章 社会調査

プロローグ

社会学の特徴

社会学は、公務員試験の「専門科目」として出題される科目の１つです。出題される公務員試験は、下表のようになっています。

★出題される公務員試験		
試験名	択一問題出題数	難易度
国家一般職大卒	5問	★★
財務専門官	3問	★★
国税専門官A 労働基準監督官A	2問	★★
法務省専門職員	10問	★
東京都特別区I類	5問	★
地方上級（中部・北陸型）	2問	★

※東京都Ｉ類Bは記述のみで択一問題の出題は無し

社会学は、法律系や経済系の科目と比較すると**出題数は少なめ**になっています。したがって、学習する際はたっぷりと時間をかけてしまわないように**程々の学習**を心掛けましょう。

次に出題の内容ですが、主に「**言葉の意味**」や「**人物と主張内容**」が試験で出題されます。過去の出題パターンを分析すると、以下のような特徴があります。

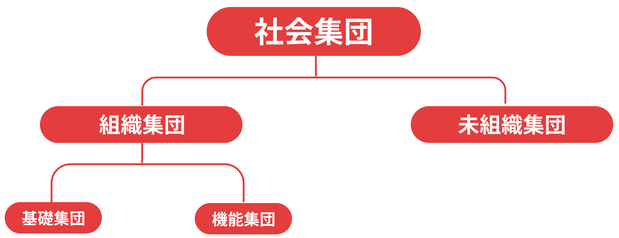
- 問題文で「Aの説明」といっているが「Bの説明」になっている
- **同じ問題内**で人物やキーワードが**逆**になっている
- それぞれの学者の立場を問われる（提唱しているのに批判したなど）

上記のような特徴をふまえ、学習をする際は①言葉の意味や人物のチェック、②①で学習した範囲の問題を解く、③②の復習という流れを意識しましょう。問題を解く際は、国家一般職の過去問は最後にして他の試験の過去問を解いていきましょう。試験前は、「反復して問題を解く」ことが何より重要です。

① 社会集団

1 社会集団の概要

社会学とは、社会の構造と機能、変動と発展を人間の社会的行為とかかわらせながら、固有の概念や方法を用いて理論的・実証的に究明する学問です。本章では、社会に存在する様々な「集団」に注目した学者の理論や考え方を学んでいきます。



社会集団は継続的な目的や組織構成員の間での相互作用などで、「組織集団」と「未組織集団」に分類することができます。

未組織集団とは、組織構成員の間で継続的な相互作用が希薄な集団のことです。以下のような集合体が、未組織集団として分類されます。

群衆	• 一定の空間を高密度で占拠し共通の関心や目標を抱いている集合体 • **G．ル・ボン**は「暗示により扇動されやすい不善の存在」として**群衆の非合理性**を説いた
公衆	• 共通の関心を持ちマス・メディアによって間接的につながっている集合体 • **G．タルド**によって「公衆」の概念が提起され、合理的に思考し行動できる理性に目覚めた存在として公衆を肯定的にとらえた
大衆	• 異なる属性や背景を持ち匿名の多数者から成り立つ集合体で空間に散在する • 共通の利害がないため相互作用効果は働かない • **J．オルテガ・イ・ガセット**は、大衆による政治支配や**大衆的な人間を批判**している

次に明確なまとまりがあり、安定的・持続的な関係がある組織集団は「基礎集団」と「機能集団」に分類することができます。

基礎集団	• 血縁関係などで**自然発生**した集団 • 家族や村落などが該当する	
機能集団	• 目的達成のために**人為的に発生**した集団 • 政党や企業などが該当する	

① W．コーンハウザー：大衆社会論

- コーンハウザーは、大衆の操縦されやすさを強調する理論と、大衆の政治参加を重視する理論を統合した大衆社会論を唱えました。

		非エリートの操縦可能性	
		低い	高い
エリートへの接近可能性	低い	共同体的社会	全体主義的社会
	高い	多元的社会	大衆社会

- 「エリートへの接近可能性」は大衆の中からエリートが出てくる可能性であり、「非エリートの操縦可能性」はエリートに大衆が操縦される可能性をいいます。

2 社会集団の類型

社会学者によって集団は類型化されていますが、各学者により名称や類型化する際の基準が違っています。

重要人物　F．テンニース

- 社会集団を「**ゲマインシャフト**」と「**ゲゼルシャフト**」に分類
- ゲマインシャフトは、**本質意思**に基づく集団で**家族**や村落が該当し、ゲゼルシャフトは、**選択意思**に基づく集団で企業や大都市、**国家**などが該当する

重要人物　C．H．クーリー

- 社会集団を「**第一次集団**」と「**第二次集団**」に分類（クーリー自身は第二次集団の名称は使用しなかったが、その後の社会学者によって第二次集団が概念化された）
- 第一次集団は、**直接的な接触**に基づく集団で家族や遊び友達などが該当し、第二次集団は、**共通の目的や利益**に基づく集団で労働組合や政党などが該当する

重要人物　高田保馬

- 社会集団を「**基礎社会**」と「**派生社会**」に分類
- 基礎社会は、**血縁や地縁**などに基づく集団で家族や国家などが該当し、派生社会は、**利益や類似**といった派生的紐帯により人為的に発生した集団で企業や宗教団体などが該当する

重要人物　R．M．マッキーヴァー

- 社会集団を「**コミュニティ**」と「**アソシエーション**」に分類
- コミュニティは、一定地域内で**共通の関心**に基づき**自生的に発生**する集団で都市や国際社会などが該当し、アソシエーションは、**コミュニティから派生**し**特定の関心**に基づき**人為的**に発生する集団で国家や政党などが該当する

重要人物 **F．H．キディングス**

- 社会集団を「**生成社会**」と「**組成社会**」に分類
- 生成社会は、**血縁**などで**自生的に形成**される集団で家族や村落などが該当し、組成社会は、**生成社会を基礎**として**目的の類似**により**人為的に形成**される集団で国家や労働組合などが該当する

重要人物 **W．G．サムナー**

- 社会集団を「**内集団**」と「**外集団**」に分類
- 内集団は、**帰属意識**や**愛着心**を持ち「**われわれ**」という仲間意識を持つ集団で、外集団は、**違和感**や**敵対心**を持ち「**かれら**」として意識される集団

重要人物 **G．E．メイヨー**

- 組織内集団を「**フォーマル・グループ**」と「**インフォーマル・グループ**」に分類
- フォーマル・グループは、組織内で**人為的に形成**される集団で、インフォーマル・グループは、組織内で形成される**非制度的**な集団

重要人物 **M．グラノヴェッター**

ホワイトカラーを対象とした実証調査によって、接触の機会が多い人々の間で形成される強い紐帯の方が、接触の機会が少ない人々の弱い紐帯よりも、転職活動において不利に作用する

3 家族

家族は、人間社会で基本単位として存在する集団です。社会学においては、**G．マードック**が家族に関する多くの理論を残しています。

① マードックの家族論

性	生殖	教育	経済
夫婦の性的欲求を充足する	子どもを産む	子どもを養い自立させる	衣食住を共にすることでの経済活動

- 現代では主な家族形態である「**核家族**」は、上記の４つの機能を有し、地域や時代に関係なく存在するとする「核家族普遍説」をマードックは唱えました。
- さらに核家族を軸として、拡大家族と複婚家族という家族形態も発生すると、マードックは述べています。

核家族	**一組の夫婦**と**未婚の子ども**からなる家族
拡大家族	• **夫婦の親**との結びつきからなる家族 • 世代をまたぐため家族形態は**縦に広い**
複婚家族	• 一夫多妻や一妻多夫からなる家族 • 一人の男性や女性を家族の中心とするため家族形態は**横に広い**

② 家族の機能に関する他の学者

- 家族の機能はマードックが唱えた「４つの機能」が主な機能として考えられていますが、異なる考え方を述べた学者も存在します。

機能縮小説	• **W．F．オグバーン**が主張 • 近代以前は家族の機能として７つの機能があったが、現代では「**愛情機能**」の１つのみが存在
２機能説	• **T．パーソンズ**が主張 • 近代社会では「**子どもの一次社会化**」・「**成人のパーソナリティの安定化**」の２つが家族の機能として存在 • 男性は職業に従事することで家族に収入をもたらし、女性は子育てや家族の世話に当たる

③ その他の学者による家族理論

重要人物 **E．W．バージェス＆H．ロック**

近代以前の家族は慣習や親などにより制度的なものだったが、近代以降は相互愛情による友愛的な家族に変化した（**制度家族から友愛家族へ**）

重要人物 **P．アリエス**

前近代社会は子どもは「小さな大人」の位置づけであったが、**近代社会**になって「**子ども期**」の概念が認知されるようになった

重要人物 **T．パーソンズ＆R．F．ベイルズ**

- **夫**であり父である男性が**手段的リーダー**の役割を、**妻**であり母である女性が**表出的リーダー**の役割を演ずるという**性別分業モデル**を提示
- 夫は職業に従事することで家族と社会をつなぎ（道具的役割）、妻は家事に従事することで家族内の調整を行う（感情的役割）

重要人物 **E．リトワク**

産業化により、古典的大家族から**修正拡大家族**（相互に部分的依存の状態にある家族）に家族の形態は変化している

重要人物 **R．ブラッド＆D．ウルフ**

現代社会における**夫婦の勢力関係**が、夫婦それぞれがもつ**資源の質と量**によって決定されるという資源説を提唱

重要人物 **G．マードック＆W．L．ウォーナー**

- 人間は一生の内に通常**二つの核家族を経験**すると論じた。初めに、この世に生を受け、父と母によって養育されるとき、人は**定位家族**に所属する（**自分が子**として見られる核家族）
- 次に、自分の人生のパートナーを見つけ、結婚して子供を産み育てるとき、人は**生殖家族**に所属する（**自分が親**として見られる核家族）

重要人物 **W．グード**

現代の家族変動である核家族化の社会的要因として、産業化といった経済的変数や技術的変数だけではなく、夫婦家族イデオロギーの普及を重要視する必要があると指摘

重要人物	E．ショーター
男女関係、母子関係、家族と周囲の共同体との間の境界線の3つの分野にわたって発生した家族に対する人々の感情の変化（感情革命）が近代家族を誕生させた	

重要人物	E．バダンテール
18世紀のパリでは子どもを里子に出すのが一般的であった事実から、母性本能は神話であり、母性愛は近代になって付け加えられたものであると主張	

④　家族に関するその他の出題

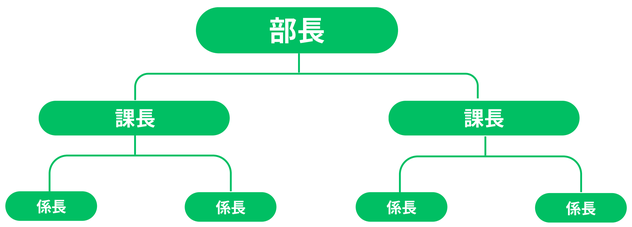
最近の研究	家族生活歴の標準モデルであるライフ・サイクルから、**個人の生涯史**をたどる**ライフ・コース**へと、研究の視点が移行してきている
家族の形態	**夫婦家族**は、家族を類型化する概念の一つであり、結婚によって家族が生まれるが、その家族は**一代で完結**するという考え方で、**世代を超えて存続**する「家」の概念に注目した**直系家族**とは概念が異なる

4　組織

人が集まり組織が大きくなってくると、組織を維持していくには効率的な組織運営が重要になってきます。今日では、「官僚制」という組織形態を採用している組織が多く、試験でもこの官僚制について問う問題が出題されます。また、この分野は行政学や政治学でも出題される可能性があるため、これらの科目を選択する予定の人はしっかりと確認しておきましょう。

①　官僚制

- **官僚制**とは、上位の階級になるほど人間が少なく、指揮命令系統が確立された組織制度のことです。 公務員組織だけでなく、**民間企業にもみられる**組織形態です。



重要人物	R．ミヘルス
民主的な理念を実現しようとして作られた組織が、肥大化していくとともにその組織の秩序を保つため、逆に少数者支配になっていくと指摘（**寡頭制の鉄則**）	

M．ヴェーバーによる官僚制理論

- 官僚制は、**合法的支配**の最も純粋な組織形態である
- 官僚制組織は、**合理性**を最も高い水準で達成する組織形態である
- 行政の官僚制が一度確立すると、官僚制は**破壊することが最も困難**な社会組織となり、永続的な性格を有する
- 官僚制化は、政党、営利企業といった**行政機関以外の組織でも進展**する

家産官僚制		近代官僚制
自由ではない	身分	自由
忠誠	服従	**契約**
古代・中世	時代	近代以降
古代エジプトの奴隷 封建制度の家臣	例	近代の西欧

R．K．マートン：官僚制の逆機能

- 官僚制は、合理的な組織形態であるとして政府や民間企業で多く採用されてきました。しかし、社会学者である**マートン**によって官僚制の**弊害**である「**官僚制の逆機能**」が指摘されました。
- マートンが指摘した官僚制の逆機能の内容が、下記の４つになります。

目的の転位	公益性や公共福祉のために仕事をするはずが**規則を守る**こと自体が仕事の目的になってしまう
訓練された無能力	**規則の遵守**の徹底により状況変化に対応ができなくなってしまう
繁文縟礼 （レッド・テープ）	規則が細かすぎて非効率な状況になってしまう
縦割り意識 （セクショナリズム）	自己の組織の利益を全体利益よりも優先してしまう

②　官僚制に関するその他の学者

重要人物　A．グールドナー

石膏事業所の実証的研究により、上からの**強制**によって制定された規則に基づく官僚制（**懲罰中心的**官僚制）と、当事者間の**合意**を通して制定された規則に基づく組織の官僚制（**代表的**官僚制）に類型化

重要人物　P．ブラウ

- インフォーマルな社会関係の凝集性の欠如が個々人の地位の不安定性をもたらし、過剰同調や目標の転倒を生み出すと主張
- 官僚制が発展的システムであるためには、最小限の雇用の安定性など組織上の欲求の5つの条件が必要であるとした

重要人物　P．セルズニック

テネシー渓谷開発公社（ＴＶＡ）を事例として、民主主義の理念を政策に反映させようとした結果、その事業に関係する有力団体を政策過程の中に取り込んだ（包摂）事実を指摘し、官僚制の逆機能を論じた

重要人物　T．バーンズ＆G．M．ストーカー

機械的システムと**有機的システム**という組織類型を提案し、機械的システムが、明確な回路をとおして意思の疎通が上下方向で行われる**官僚制的システム**であるとした

5　その他

①　R．パットナム：社会関係資本

- パットナムは、**イタリア**の各地域を分析して、地域により地方政府の業績が異なることを、「**社会関係資本**」の相違によって説明しました。それによれば、垂直的な人間関係よりも、**水平な人間関係**が構築されている地域のほうが、人々の**コミュニティ意識が高まり**、その地方の政治システムが円滑に作動するため、**地方政府の業績が良い**とされました。
- 著書である『孤独なボウリング』において、**現在のアメリカ**では「ひとりぼっちでボウリングをする」ことが増えていることから、**共同体が衰退**し、市民参加の機会が減少していると論じました。

②　中根千枝：タテ社会の人間関係

- 中根千枝は、日本社会では、**場の共有**が集団構成の重要な原理となっていると述べました。
- 場によって形成される集団は、他の集団に対して明確な枠をつくり、「ウチの者」、「ヨソ者」といった意識を強めることになり、集団内部の人間関係は序列化され、先輩、後輩等の「**タテ**」の関係が発達するとしました。

最短合格
公務員のライト

専門科目

公務員のライトの「社会学」講座

まずは「無料」の
体験講義を見る

講座の詳細はこちら

無料 LINEで受講相談実施中！

どんな質問でもOK

- オススメの講座
- 講座の内容
- 決済方法
- スケジュール…等

お気軽にお問い合わせください。